



150年前と 今の授業 が同じ？！



先生の授業から生徒の授業へ

マンガで読む！

原作 渡部潤一 漫画 西谷まみ



知ってた？今の授業は150年前そのままだったって！

本当？ 150年前って明治時代でしょ？

世の中こんなに進化しているのに？学校って昔のまま？

じゃあ、一緒に見に行こう！今の学校と、これからあるべき学校を！

はじめに

ご存知でしょうか。実は、公教育が始まって 150 年、ほぼ同様な形で学校の授業が進められてきました。（「学校をつくり直す」苦野一徳）

私も教員をして三十数年ですが、新米教員の時と今とを比べても、授業の仕方に大きな違いはないように思います。（もちろん、PCを使うなど技術的な違いは大いにありますが）。

親子の何気ない会話で「先生のお話、ちゃんと聞いてる？」「授業中に手を挙げている？」「ノートはちゃんと写している？」

先生の何気ない呼びかけも「みんな、わかりましたね？」「わかった人、手を挙げて！」「先生の書くこと、書き写してね」

ごくごく普通の会話や呼びかけかもしれません。ただ、このままでよいのか、私には大いに疑問が残ります。

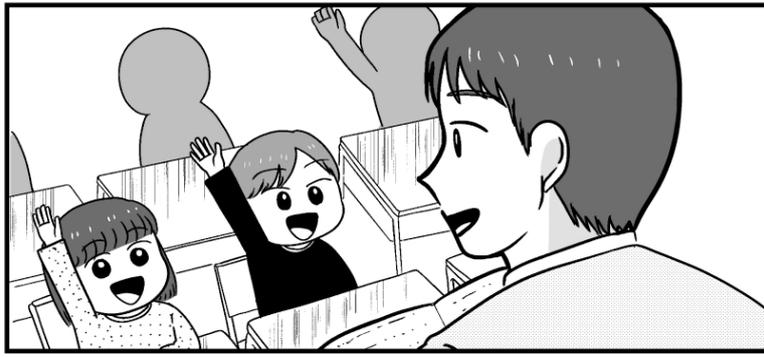
今、学校でどのような授業が行われているかをふりかえりながら、一緒に疑問を感じていきませんか。後半は、そのためにどのようにすれば良いのか、手立てや実践例などを紹介していきます。

目次

はじめに	1
目次	2
第 1 章 現状の授業と問題点	3
第 2 章 改善をした授業内容例	7
第 3 章 子どもたちの成績は？	20
第 4 章 『学び合い』で育つ心	24
第 5 章 いろいろな『学び合い』	31
第 6 章 多様性を認めて	41
第 7 章 上手な授業とは？	46
あとがき	51

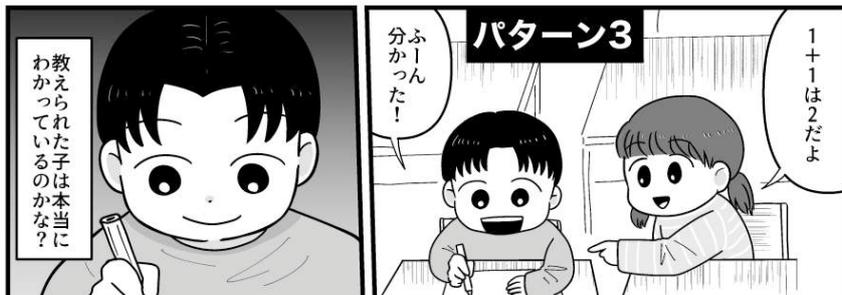
第1章

現状の授業と問題点



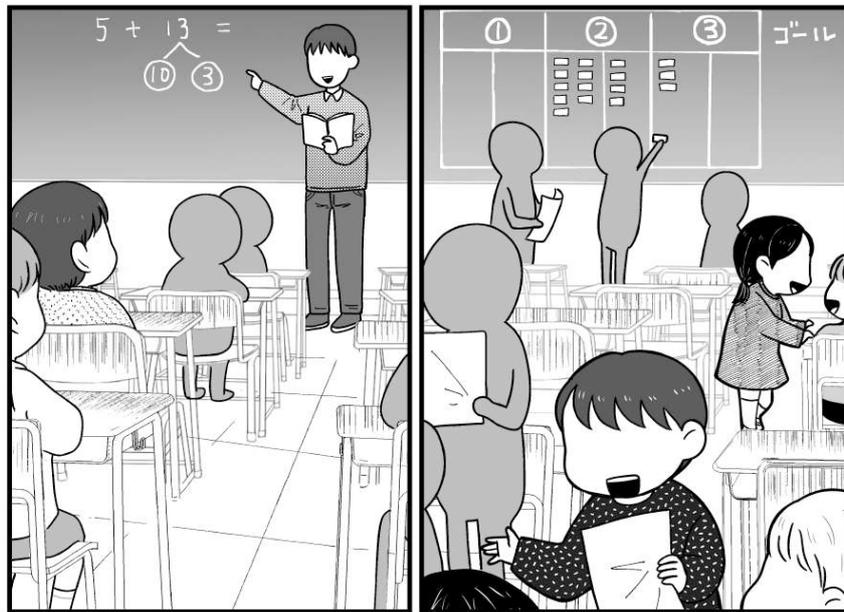


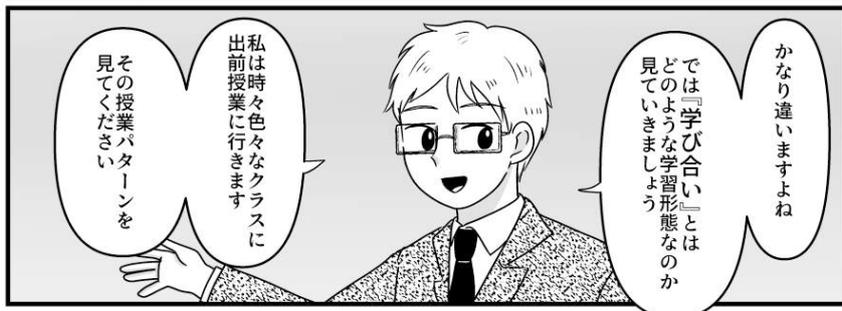


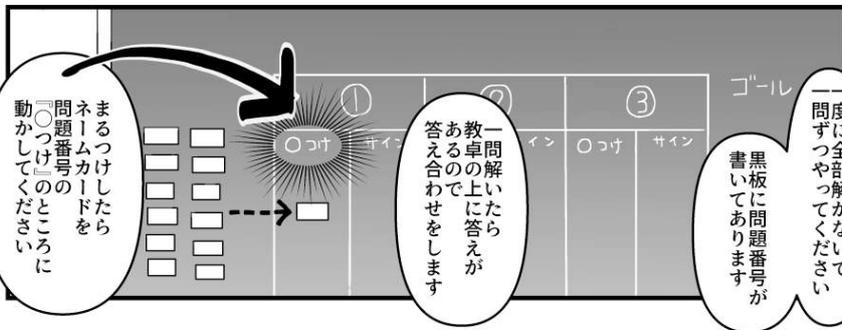


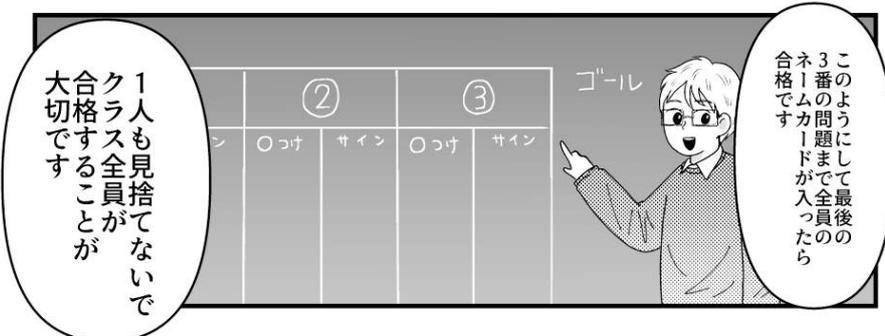
第2章

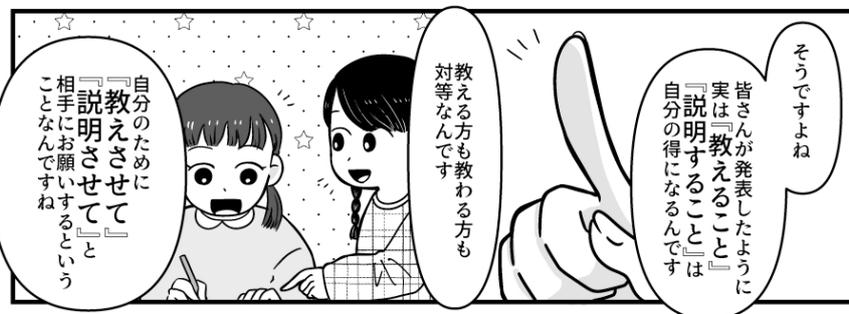
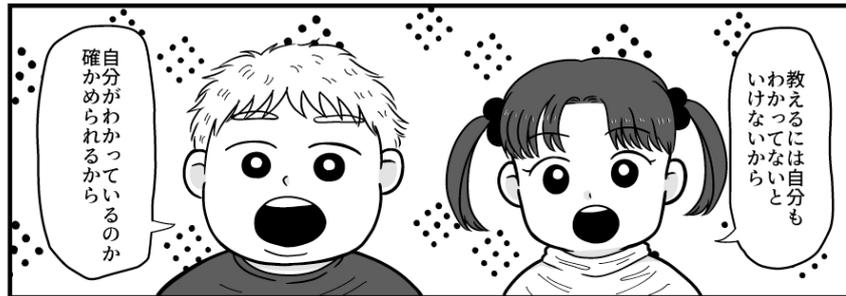
改善をした授業



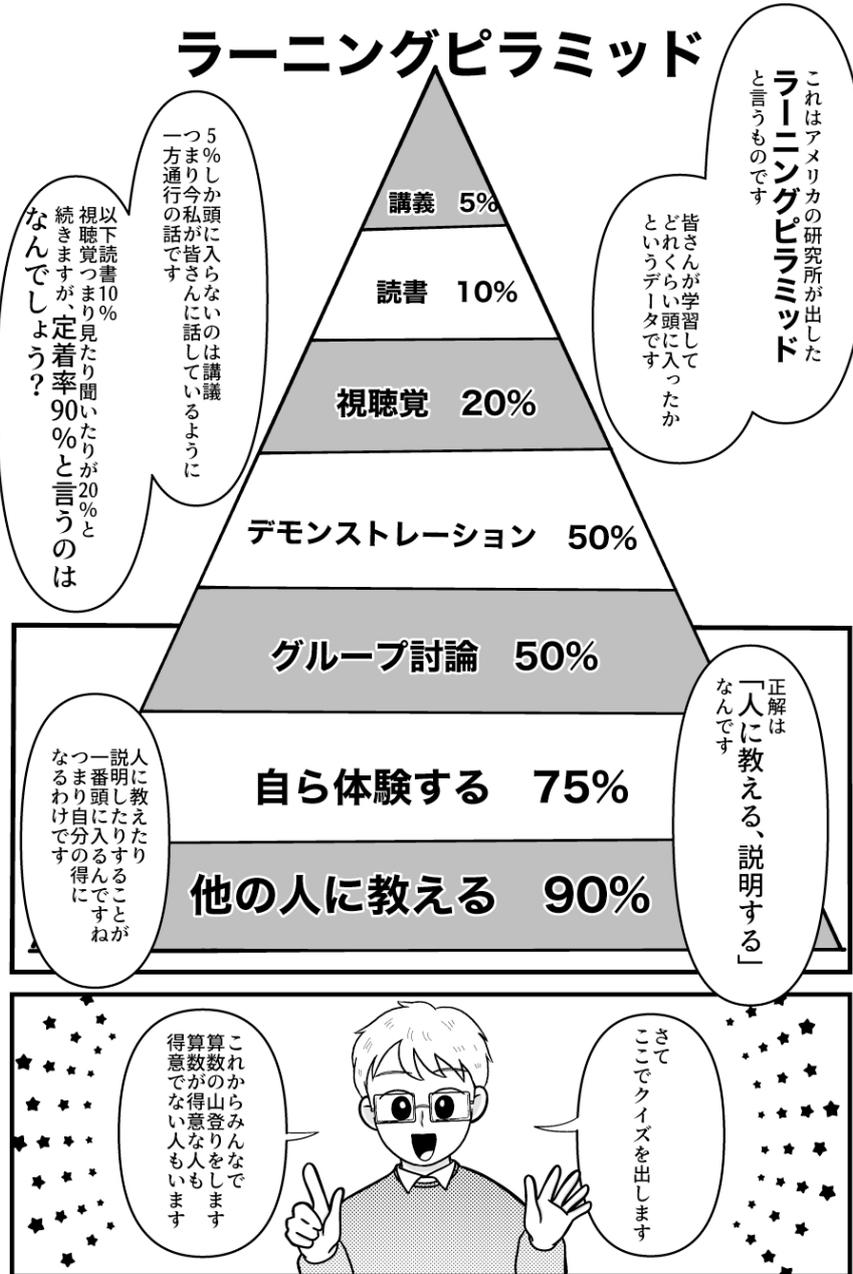


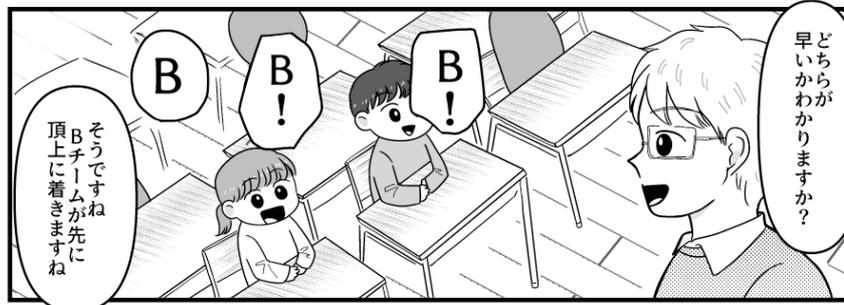
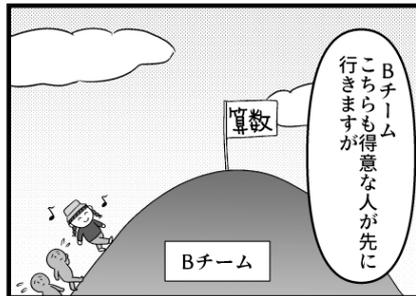
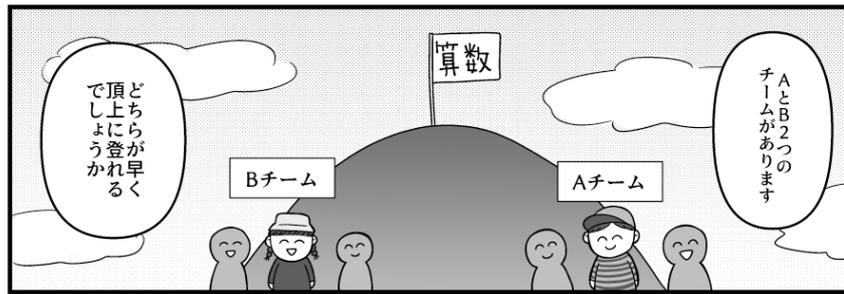


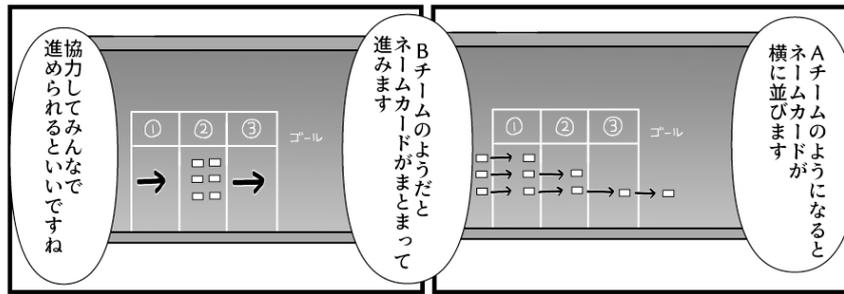




ラーニングピラミッド



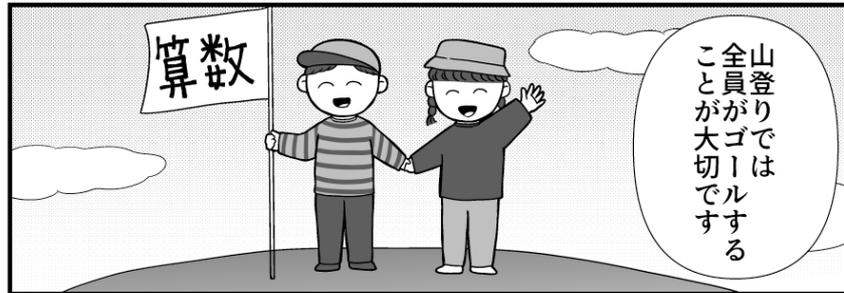




協力してみんなで進められるといいですね

Bチームのようだとネームカードがまとまって進みます

Aチームのようになるとネームカードが横に並びます



山登りでは全員がゴールすることが大切です



じゃんけんゲームです

ではここで簡単なゲームをします



3回勝つまで何人とやってもいいですが、同じ友達とやっってはけません

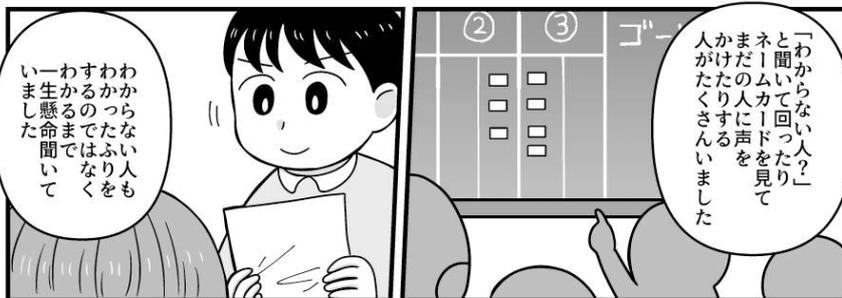
合計3回勝ったら座ります

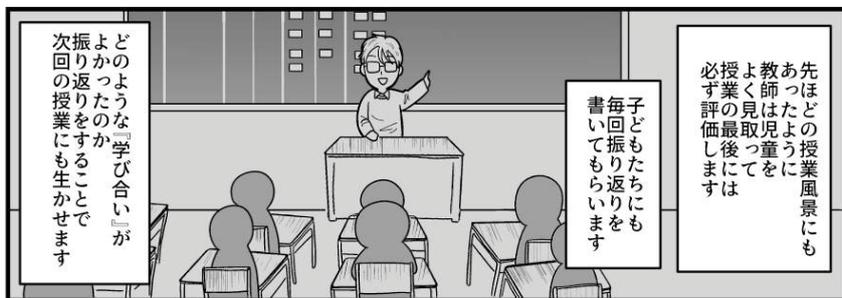
まず全員立ちます 誰とでもいいのでじゃんけんをします







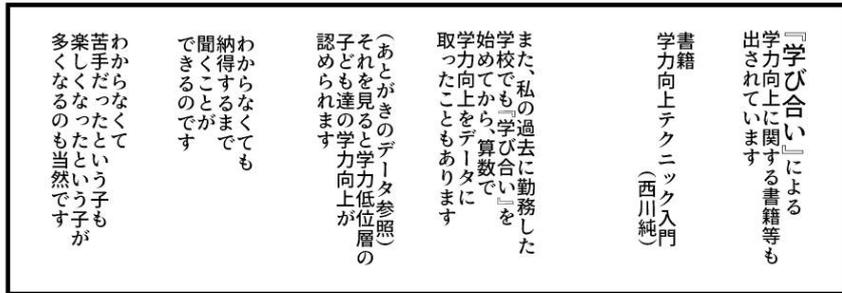
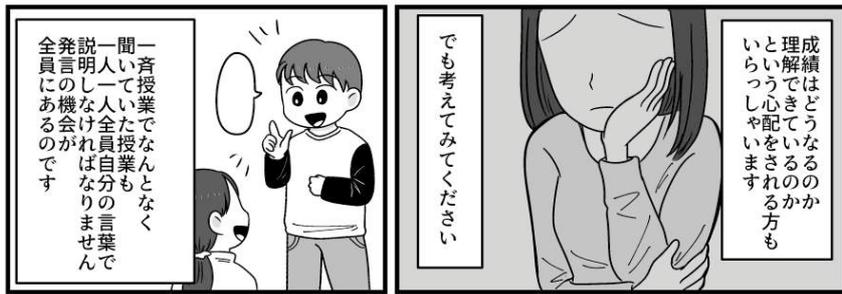


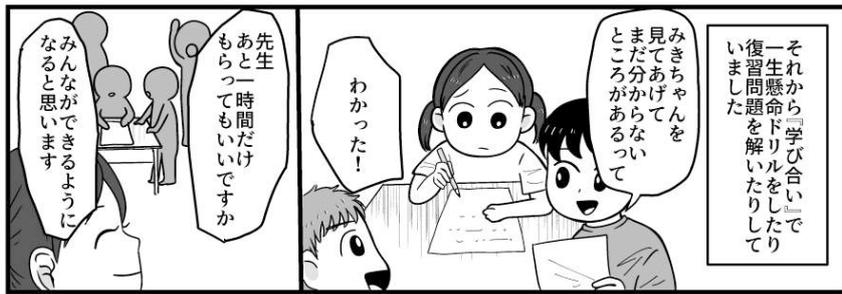


第3章

子どもたちの成績は？







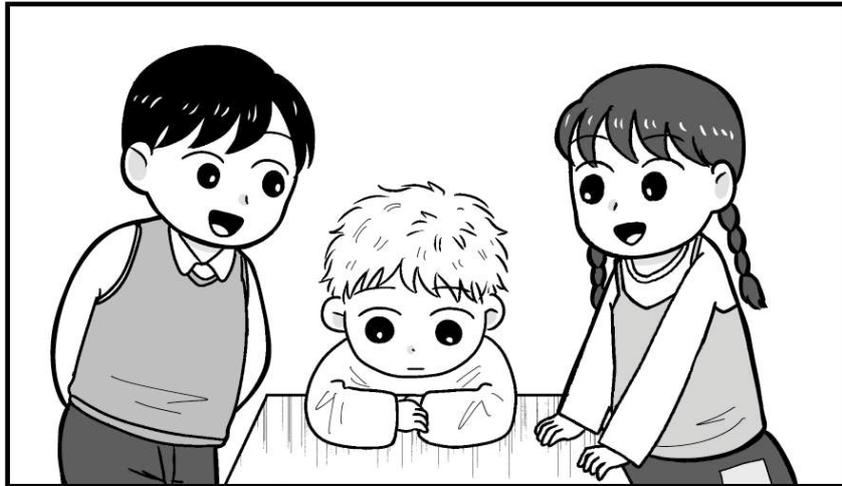


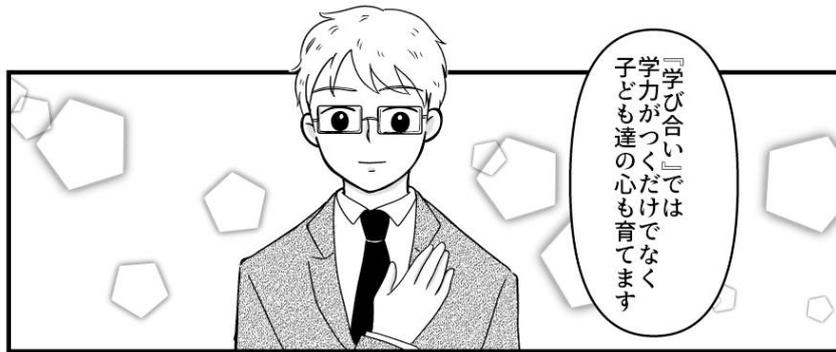
よかったですね!!



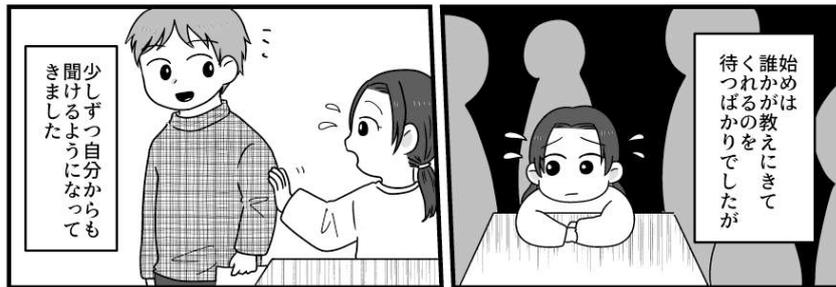
第4章

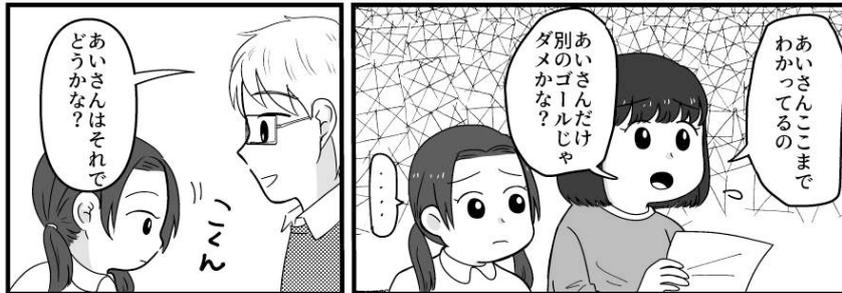
『学び合い』で育つ心





エピソード 1









エピソード 3



エピソード 4





しかし友達も
いい加減にわかっ
たりはしません
— 一生懸命聞きます

ただ彼の説明は要領を
得にくいので
わかりづらいのです



聞き手が真剣であれば
話し手も
コミュニケーション力が
増す例です

なんとか相手に
わかってもらおうと
話し方を変えて
一生懸命伝えよう
とするのです

するとひろしさんに変化が
出てきました



この「学び合い」は
特別支援の子たちにも
十分通じる学習方法です

特別支援学級の中だけでは
このコミュニケーション力が
育つのも難しかったかも
しれません

いつもは何を
言っているかわからないので
驚きです

特別支援担当の先生も
驚いていました



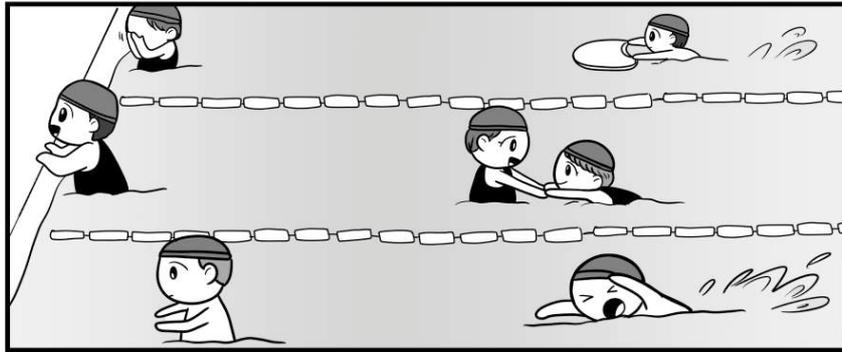
みんなが共生できる
大人社会に向かつて
とても大切なことだと
考えています

通常級の子たちも
同じく
特別支援の子たちとの
コミュニケーションを
学ぶべきだと思います

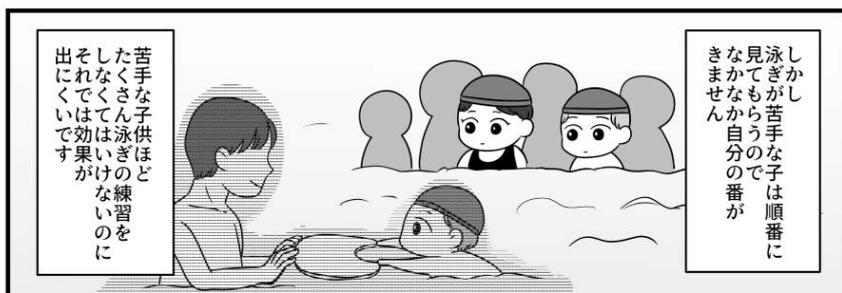
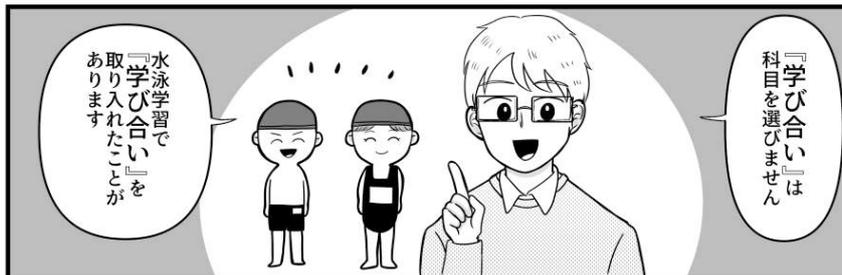
私たちは特別支援学級の中
だけでコミュニケーションを
とるのではなく、通常級の
子ども達ともどのように
コミュニケーションをとるか
学ぶべきではないでしょうか

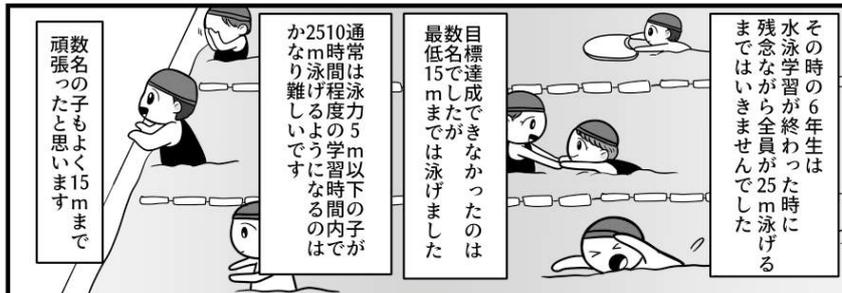
第5章

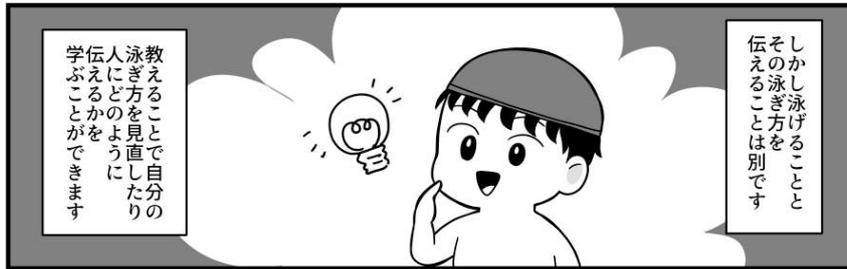
いろいろな『学び合い』



その1 水泳学習での『学び合い』

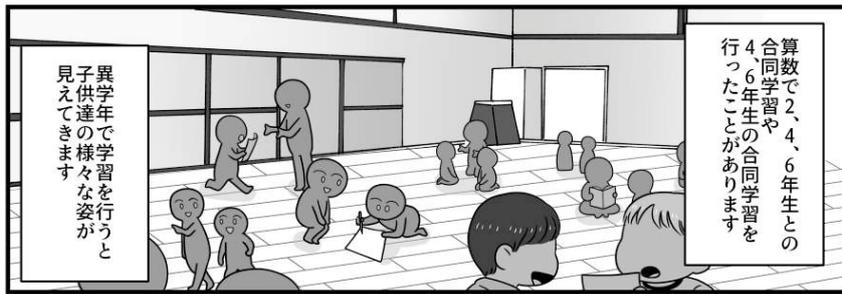






その2 異学年『学び合い』







その3 「教科書を見てはいけない」文化から「自分たちで進められる」文化へ



しかし『学び合い』では先に学ぶべきポイントを押さえてから学習に入ります

前述の円の面積の学習では一例としてこのように進められます

今から円の面積の求め方の勉強を始めます



だれか円の面積を求める公式を知っている人はいますか

半径×半径×円周率です



そうですね教科書にも書いてありますね

今回のみなさんのめあては『なぜ、円の面積を求める公式がこの式なのか』を説明することです

教科書を見てもいいので友達に説明できるようにしましょう

このように進めていきます

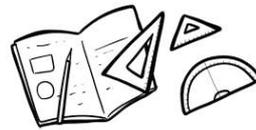


また、単元ごとにも子ども達に任せることもあります

円の面積
半径×半径×円周率

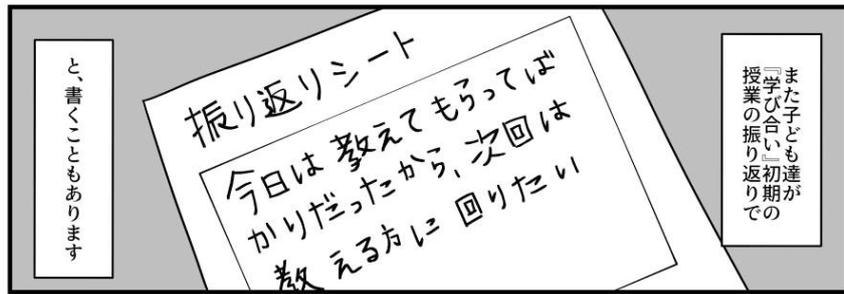


例えば前述の円の面積を求める単元で子ども達に任せる場合を例にとりましょう



その4 『学び合い』は結局 教えられる子はずっと教えられるだけ？





と、書くこともあります

また子ども達が「学び合い」初期の授業の振り返りで



つまり、教わる方も実は教えていることになるのです

ここで大切なことは「教える側も教わっている」ということです



あっ!!
この数が
こうなるから...

えっと
それは...

ここは
どうして
こうなるの?

理由は教えている方も相手からの質問により自分の理解を深めながら説明しているからです



ありがとうございます
ありがとうございます
ありがとうございます

ありがとうございます

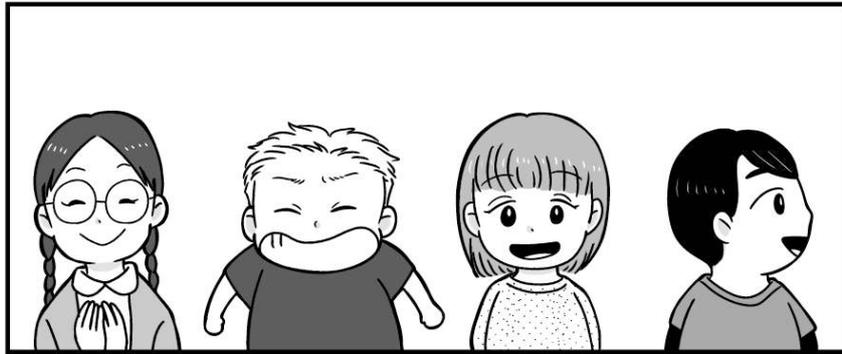
ありがとうございます

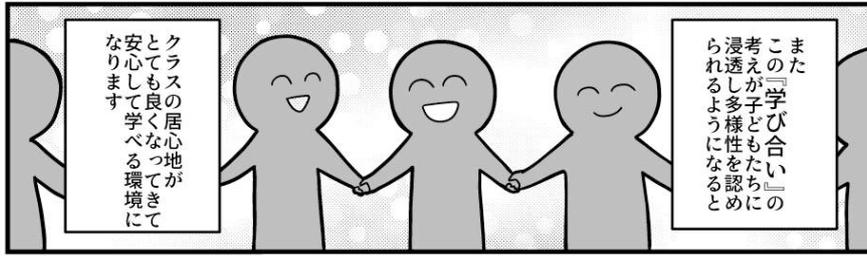
学び合いが進んでいくと

ですから「学び合い」では教える方も教わる方も対等です

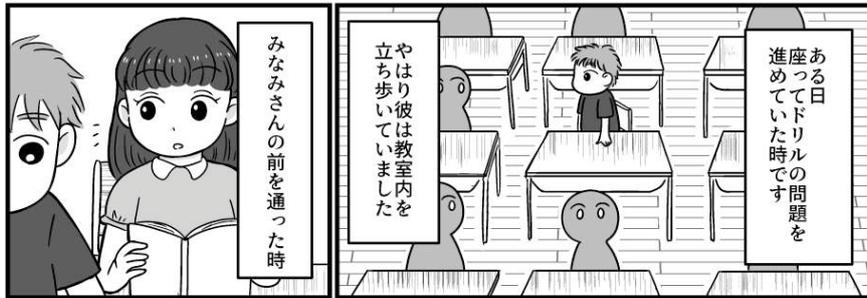
第6章

多様性を認めて





エピソード 1





それから少しずつ立ち歩きが少なくなり授業に参加できるようになりました

そう感じたのではないのでしょうか

「自分はこのクラスに受け入れられている」

エピソード 2



ハイッ...

3年生になったある日彼は立ち歩いた後教室の戸棚に隠れました

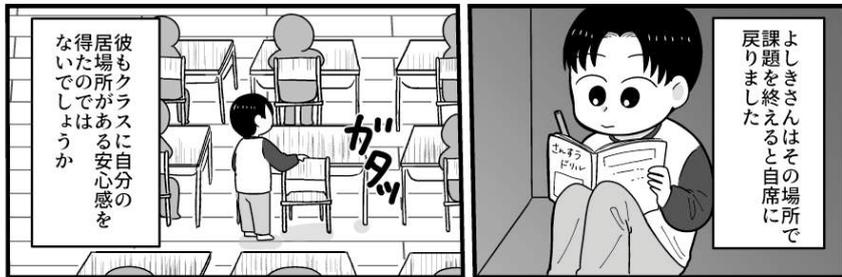
また同じように2年生の時は教室から飛び出したり立ち歩いたりしましたよしきさんがいました



勉強道具持っていますかあけていいですか

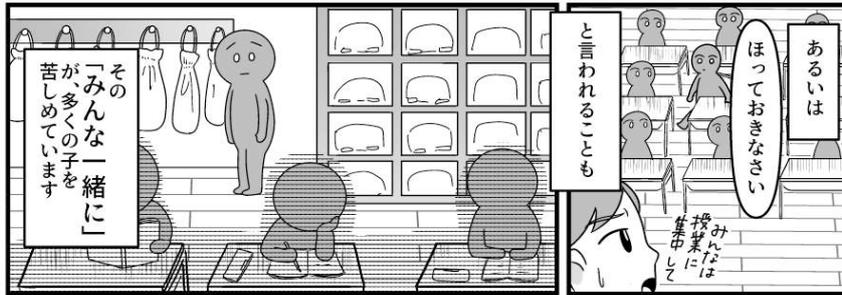
先生、よしきさんあそこなら勉強できるって

どうしたいの？そこがたいの？勉強できる？



彼もクラスに自分の居場所がある安心感を得たのでしょうか

よしきさんはその場所で課題を終えたと自席に戻りました





第7章

上手な授業とは？



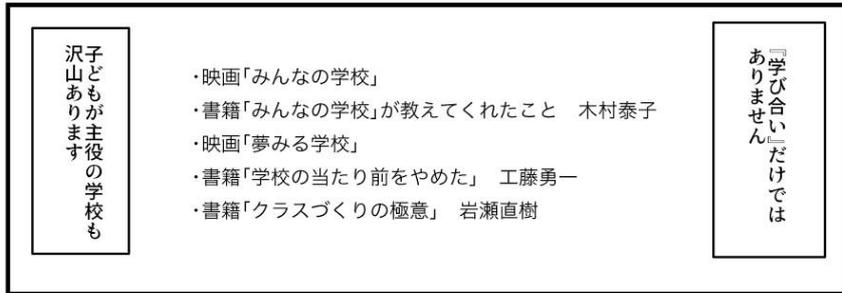




150年前から変わらない
一斉授業をいかに上手に
進めるかが今までの
やり方だったと思います

これからは
子どもを信じて
子どもに任せる
ことを目指す

ファシリテーターに
教師はなるべきでは
ないでしょうか



『学び合い』だけでは
ありません

- ・映画「みんなの学校」
- ・書籍「みんなの学校」が教えてくれたこと 木村泰子
- ・映画「夢みる学校」
- ・書籍「学校の当たり前をやめた」 工藤勇一
- ・書籍「クラスづくりの極意」 岩瀬直樹

子どもが主役の学校も
沢山あります



根本的な考えが変わると
校内研修の在り方にも
疑問が沢山出てきます

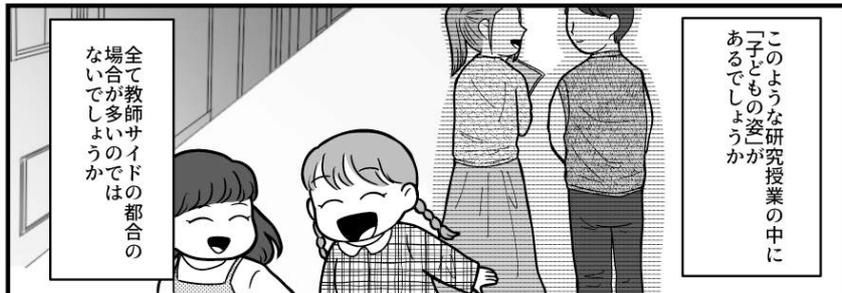
小学校でよく行われている
研修パターン

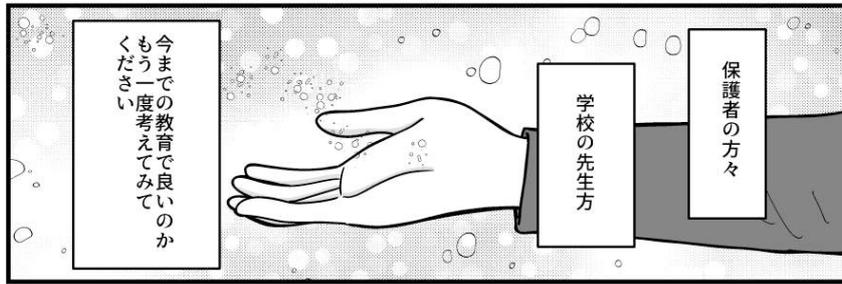
今度の
研究授業
誰がやる？



みんな研究授業を
するのを嫌がります

授業技術の優劣を
言われるからです





あとがき

最後までお読みいただきありがとうございました。

ある担任が授業参観後に保護者に言われました。「今日の授業もいいけど、もっと子供が活発に手を挙げる授業も良いですね。」保護者の方々もご自分が受けてきた授業体系が評価基準になっています。(この場合は挙手の回数)

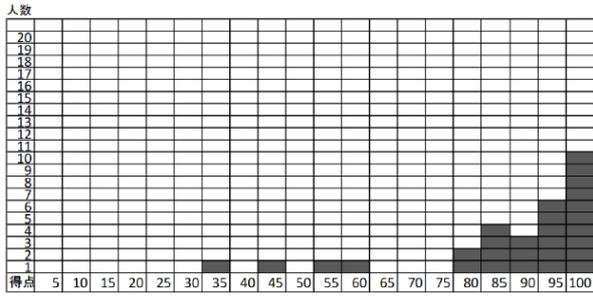
手を挙げる回数が理解に結びついているのでしょうか。手を挙げて発表できる子は1時間の中で何人いるのでしょうか。

授業で子ども全員が主体に動いているか、一人一人にアウトプットの機会が与えられているか、などの観点で見ると、今までと違った目線で見えてくるものがあります。

また本編でお話した学力と『学び合い』の関係についてデータがありますので以下に紹介します。これは4年生の算数のテストのデータを1学期から3学期の間に取ったものです。横軸が得点、縦軸が人数です。1学期、2学期、3学期と進むにつれて得点が高い方へ人数が移動しています。これは平均点とは違います。最低点の動きが見えます。クラスの平均点では上がったとしても低得点の子はそのままのことが多いです。

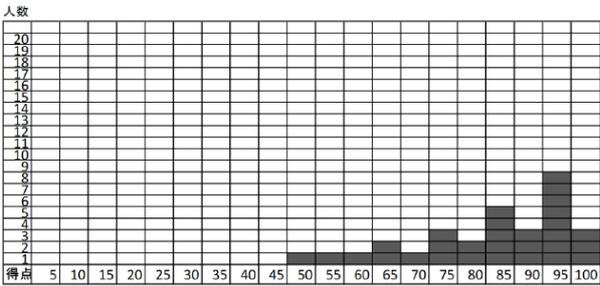
1 学期

4年生算数 1学期



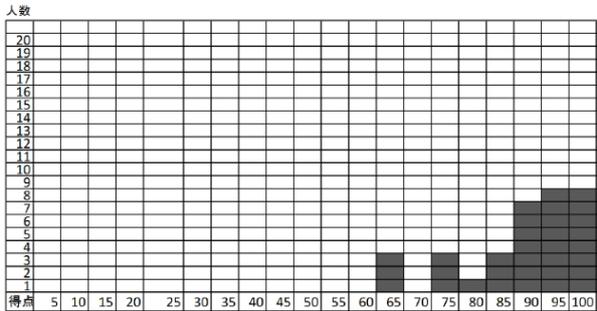
2 学期

4年生算数 2学期



3 学期

4年生算数 3学期



子ども達ができるはずなのに、できることを先走りしてやってあげる親や先生。思い切り任せたら、「こんなこともできるんだ！」と驚きの連続かも知れません。

最後に、編集にご協力いただいた西谷まみ様には、『学び合い』の考えを理解していただき、温かい漫画にいただきました。本当にありがとうございました。

イラストレーター・漫画家 西谷まみ

私にも小学生の子供がいるのですが、自分が子供の頃と今とで学校の様子もだいぶ違うことを身をもって感じております。時代の変化に伴い学校の先生が子供達のために日々努力なさっていることを知り、改めて感謝いたしました。学校の環境は子供の人生に大きく影響すると思うので、多くの方にこの作品を読んでいただけたらと思います。自分も大人として親として、価値観をアップデートしていきたいと思います。この度は貴重な経験をさせて頂き、ありがとうございました。

参考文献

吉野一徳 「学校」を作り直す 河出新書 2019年

三崎隆 『学び合い』カンタン課題づくり！ 学陽書房 2015年

西川純 クラスが元気になる！『学び合い』スタートブック 学陽書房 2010年

青木幹昌 成功する！『学び合い』授業の作り方 明治図書 2015年

【著者紹介】

渡部潤一（わたなべ じゅんいち）

島根県松江市出身

千葉県小学校教員 教員歴 35 年

（2018 年～2020 年 インド チェンナイ補習授業校勤務）

【漫画執筆者紹介】

西谷まみ（にしや まみ）

イラストレーター・漫画家。主に育児マンガや広告マンガを掲載。二児の母。

ポートフォリオ <https://fori.io/dorompa11juve>

知ってた？今の授業は150年前そのままだって！

本当？ 150年前って明治時代でしょ？

世の中こんなに進化しているのに？学校って昔のまま？

じゃあ、一緒に見に行こう！今の学校と、これからあるべき学校を！

はじめに

ご存知でしょうか。実は、公教育が始まって 150 年、ほぼ同様な形で学校の授業が進められてきました。（「学校をつくり直す」苦野一徳）

私も教員をして三十数年ですが、新米教員の時と今とを比べても、授業の仕方に大きな違いはないように思います。（もちろん、PCを使うなど技術的な違いは大いにありますが）。

親子の何気ない会話で「先生のお話、ちゃんと聞いてる？」「授業中に手を挙げている？」「ノートはちゃんと写している？」

先生の何気ない呼びかけも「みんな、わかりましたね？」「わかった人、手を挙げて！」
「先生の書くこと、書き写してね」

ごくごく普通の会話や呼びかけかもしれません。ただ、このままでよいのか、私には大いに疑問が残ります。

今、学校でどのような授業が行われているかをふりかえりながら、一緒に疑問を感じていきませんか。後半は、そのためにどのようにすれば良いのか、手立てや実践例などを紹介していきます。

目次

はじめに	1
目次	2
第 1 章 現状の授業と問題点	3
第 2 章 改善をした授業内容例	7
第 3 章 子どもたちの成績は？	20
第 4 章 『学び合い』で育つ心	24
第 5 章 いろいろな『学び合い』	31
第 6 章 多様性を認めて	41
第 7 章 上手な授業とは？	46
あとがき	51

150年前と今の授業が同じ？！

著 渡部潤一
著 西谷まみ

制 作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
